

平成18年度 岐阜県高等学校総合体育大会バスケットボール競技
兼東海・全国高等学校総合体育大会岐阜県予選会
最終日：平成18年5月28日(日)
会場：関わかくさプラザ

男子の部

<審判>

決勝リーグ 美濃加茂 97 $\left[\begin{array}{l} 25 - 10 \\ 12 - 22 \\ 27 - 10 \\ 33 - 15 \end{array} \right]$ 57 大垣工 室谷伸治・大野貴司
(2勝) (2敗)

互いにマンツーマンディフェンスでスタート。美濃加茂は激しいディフェンスで相手のターンオーバーを誘うと、熊澤、松葉を中心とした速い展開で得点を重ねる。大垣工は1対1に頼る単調な攻めで、苦しい展開になる。第2ピリオドに入り、美濃加茂がベンチメンバーに交代すると、大垣工がリズムをつかみ、高橋、松久らがシュートを決める。前半は美濃加茂が5点リードして折り返す。

第3ピリオドに入ると、美濃加茂は熊澤が多彩な攻めで4連続でシュートを決めるなど次第に点差を広げていく。さらに安藤が3本の3点シュートを決め、その後交代したメンバーも次々にシュートを決め、97-57の大差をつけ決勝リーグ2勝目をあげた。大垣工も高橋、松久の1対1で攻めるが、シュート力の差で敗れ去った。(村田竜一)

決勝リーグ 大垣商 74 $\left[\begin{array}{l} 13 - 23 \\ 19 - 19 \\ 24 - 21 \\ 18 - 10 \end{array} \right]$ 73 高山西 山田祐治・角平和優
(2勝) (2敗)

両チームともマンツーマンで試合がスタート。高山西は垣内、新井の連続3点シュートで勢いに乗ると、リバウンドから速攻を展開し、次々とゴールを決める。大垣商は木村がインサイドプレーで踏ん張るが、前半は高山西が10点をリードして折り返す。

試合が動いたのは第3ピリオド。大垣商は相手のミスに乗じて小寺が連続3点シュートを決めて勢いづくが、木村のドライブインで同点とし、試合を振り出しに戻す。しかし、その後高山西も負けずに新井を中心に攻めて、7点のリードを奪い最終ピリオドへ。第4ピリオド、大垣商業が再び追いつき同点となった残り1分から、高山西が垣内のフリースローで1点リードすれば、大垣商は小寺のドライブで逆転。しかし、高山西も新井のドライブで再逆転。大垣商は残り1秒で木村がドライブからのシュートを決めて、1点差で粘る高山西を振り切り、決勝リーグ2勝目をもぎ取った。(三浦広和)

決勝リーグ 美濃加茂 110 $\left[\begin{array}{l} 24 - 18 \\ 31 - 15 \\ 25 - 16 \\ 30 - 8 \end{array} \right]$ 57 大垣商 増田博徳・相宮俊郎
(3勝) (2勝1敗)

両チームともマンツーマンディフェンスでスタートする。美濃加茂はパッシングゲームからノーマークを作り、熊澤、波多野、馬場とバランスよくミドルシュートを決める。大垣商は1対1からのドライブインを中心に得点を重ね、第1ピリオドは24-18と美濃加茂の6点リードで終了する。第2ピリオドに入ると、美濃加茂は激しいディフェンスからの速攻と、熊澤の1対1で得点し主導権を握る。大垣商は木村が4つめのファウルをおかしベンチに下がると、思うように得点が伸びない。前半は美濃加茂が55-33と22点リードで終了する。

第3ピリオド、大垣商は流れを変えるためにディフェンスを1-3-1ゾーンに変えるが、美濃加茂は落ち着いてパスを回し、ゴール下の合わせのプレーで得点する。大垣商は井上、大橋が3点シュートを決めるが、単発に終わり流れを変えることができない。第4ピリオドに入ると、美濃加茂は安藤が4本の3点シュートを決める活躍をみせて、完全にゲームの勝敗を決定づける。大垣商は木村の前半の4ファウルが最後まで響き、流れに乗ることができなかった。優勝への意欲に燃える美濃加茂が全員でよく走り、シュートを決めて110-57で勝利し、昨年の選抜大会、今年の新人大会に続いて3大会連続で優勝を飾り、初のインターハイ出場を決めた。(岩永英夫)

| | | | | | | |
|-------|---------------|-----|--|----|-------------|-----------|
| 決勝リーグ | 高山西 (1勝2敗) | 103 | $\begin{bmatrix} 20 - 27 \\ 26 - 18 \\ 31 - 20 \\ 26 - 17 \end{bmatrix}$ | 82 | 大垣工 (3敗) | 松野瑞穂・神山元秀 |
|-------|---------------|-----|--|----|-------------|-----------|

第1ピリオド、高山西はオールコートマンツーマン、大垣工はハーフコートマンツーマンでスタート。高山西は 新井を中心にドライブイン、ブラインドからの合わせのプレーで着実に加点する。大垣工も 高橋の3本の3点シュートや、田中のオフェンスリバウンドでリズムをつかむ。第2ピリオドまでは、両チーム一進一退の攻防が続くが、最後にブレイクで加点した高山西が逆転し、1点リードして前半を折り返す。

第3ピリオド、大垣工は 高橋の3点シュート、1対1と単発なオフェンスとなるが、インサイド陣がオフェンスリバウンドを奪い、一旦はリードを奪う。しかし高山西は、激しいディフェンスから 垣内、佐藤のブレイクで加点し、12点のリードを奪い主導権を握って第4ピリオドへ。第4ピリオドに入っても、高山西は 佐藤、新井が着実にシュートを決め、相手の追撃をかわし勝利を収めて、第3位となり初の東海大会出場を決めた。大垣工も 水谷、松久が必死に追い上げのシュートを決めたが、最後まで追いきれなかった。(名越龍男)

女子の部

<審判>

| | | | | | | |
|-------|--------------|----|--|----|-------------|-----------|
| 決勝リーグ | 岐阜女子 (2勝) | 98 | $\begin{bmatrix} 27 - 6 \\ 21 - 3 \\ 24 - 9 \\ 26 - 6 \end{bmatrix}$ | 24 | 高山西 (2敗) | 棚橋英一・長屋 貴 |
|-------|--------------|----|--|----|-------------|-----------|

岐阜女子はオールコートマンツーマン、高山西はハーフコートマンツーマンでスタートする。岐阜女子は激しいディフェンスで相手の攻撃を封じ、速いパス回しから全員がシュートを決めリードを奪う。高山西は相手のディフェンスを崩すことができないまま第1ピリオドを終了する。第2ピリオドに入り、高山西は 張にボールを集め、リズムをつかもうとする。しかし、岐阜女子はガード陣へのプレッシャーやペイント内でのダブルチームでボールを奪い、速い展開からシュートにつなげる。その後も 田中沙からの合わせのプレーなどで着実に得点を重ねた岐阜女子が、48-9の大量リードで前半を折り返す。

後半に入っても、岐阜女子は攻撃の手を緩めず、激しいディフェンスからの組織的な攻撃で、田中優を中心に得点を重ねる。その後両チームともメンバーチェンジを繰り返すが、岐阜女子優位のままゲームは進む。高山西は 室谷のバスケットカウント、小林のインサイド、杉山のシュートで得点して食い下がるものの、スピード、シュート力とも優る岐阜女子が試合を通じて激しいディフェンスを続け、98-24で圧勝し、決勝リーグ2勝目をあげた。(杉山博宣)

| | | | | | | |
|-------|--------------|----|---|----|--------------|------------|
| 決勝リーグ | 県岐阜商 (2勝) | 87 | $\begin{bmatrix} 28 - 22 \\ 23 - 2 \\ 20 - 17 \\ 16 - 25 \end{bmatrix}$ | 66 | 岐阜総合 (2敗) | 小泉純子・赤石恵美子 |
|-------|--------------|----|---|----|--------------|------------|

両チームともハーフコートマンツーマンで始まる。県岐阜商が力強いリバウンドから速攻に走り、梶野がジャンプシュートを決めれば、岐阜総合はパスをきっちり回し、杉山がインサイドでシュートを決め、どちらも一歩も譲らぬ展開となった。しかし第2ピリオドに入ると、県岐阜商はディフェンスの当たりを強めて相手のミスを誘うと、長瀬の3点シュート、高橋のリバウンドシュート、宮ノ脇のシュートなどで完全に主導権を握った。岐阜総合はパスが回らないため、思うようなシュートが打てずにわずか2点に終わる。前半を終えて県岐阜商が51-24と大きくリードした。

第3ピリオドに入ると、県岐阜商はベンチメンバーを多く出場させ、山北、高橋がよくシュートを決める。岐阜総合も 宮崎の3点シュート、酒井のシュートなどで追い上げるが、点差を詰めるまでには至らない。第4ピリオドに入ると、岐阜総合は 杉山のインサイドにボールを集め必死の追い上げを図る。しかし県岐阜商は、着実に速攻を決めて相手の追い上げを振り切り、87-66で勝利し、決勝リーグ2勝目をあげた。岐阜総合も互角の競り合いをみせたが、第2ピリオドの自滅で勝利に見放された。(田中友恵)

| | | | | | | |
|-------|--------------|----|---|----|----------------|-----------|
| 決勝リーグ | 岐阜女子 (3勝) | 88 | $\begin{bmatrix} 23 - 8 \\ 19 - 11 \\ 32 - 10 \\ 14 - 24 \end{bmatrix}$ | 53 | 県岐阜商 (2勝1敗) | 小牧秀則・後藤慎二 |
|-------|--------------|----|---|----|----------------|-----------|

決勝リーグ最終戦は、岐阜女子と県岐阜商の戦いとなった。岐阜女子は開始早々タップから得点し、伊藤、水谷を中心に得点を重ね、第1ピリオドを終える。第2ピリオド、岐阜女子は田中優、田中沙がオフェンスリバウンドからのシュート、ハイローのあわせからのシュートなど高さを活かし、確実に得点に結び付けていく。一方、高さに劣る県岐阜商は果敢にボールを奪うと、長瀬を中心に速い展開から梶野の3点シュートなどで得点する。前半は岐阜女子が42-19とリードして折り返す。

第3ピリオドに入ると、県岐阜商は小倉、梶野の連続3点シュートで反撃の流れをつかんだかに見えた。しかし岐阜女子は伊藤のドライブや3点シュート、交代で入った安井のパスカット、ドライブシュートなどの活躍で、第3ピリオドだけで6本もの速攻レイアップシュートを決めるなど、45点の大差をつけ勝利を決定づけた。第4ピリオド、県岐阜商はディフェンスを時折変化させ、相手のミスを期に小倉、梶野の連続3点シュート、高橋の速攻、長瀬のドライブなどで反撃する。しかし最後は安井が落ちていてシュートを決めて相手の反撃を断ち切り、88-53で岐阜女子が勝利し、13年連続15回目のインターハイ出場を決めた。(井口貢志)

| | | | | | | |
|-------|---------------|----|--|----|--------------|----------|
| 決勝リーグ | 高山西 (1勝2敗) | 63 | $\begin{bmatrix} 9 - 16 \\ 17 - 8 \\ 17 - 15 \\ 20 - 13 \end{bmatrix}$ | 52 | 岐阜総合 (3敗) | 西尾司・藤浪元明 |
|-------|---------------|----|--|----|--------------|----------|

第1ピリオド、両チームともハーフコートマンツーマンでスタート。高山西はインサイドを使って攻めようとするが、パスがうまく回らずシュートが決まらない。対する岐阜総合は、粘り強いディフェンスからリズムをつかみ、宮崎、角野の3点シュートや安田のシュートで7点のリードを奪う。第2ピリオドに入ると、高山西はディフェンスの当たりを強めて、相手の攻撃を封じては、張のインサイドを使って得点を重ね逆転に成功。速攻にも走って、前半は高山西が26-24と2点リードする。

第3ピリオド、高山西は中川の3点シュートや畦地のリバウンドシュートで先手を取れば、岐阜総合は安田、角野、宮崎の3点シュートが効果的に決まり一歩も退かない。高山西4点リードで最終ピリオドを迎える。第4ピリオド、高山西は張のポストプレーや畦地へのハイローのプレーで着実に得点を伸ばすと、ディフェンスをオールコートゾーンプレスに変えて相手の出足を止め、最後は11点差をつけて勝利し、東海大会への切符を勝ち取った。岐阜総合も杉山がインサイドで頑張りよくシュートを決めたが、最後はアウトサイドのシュートが決まらず敗れ去った。(川上亮輔)